



いさむさんの

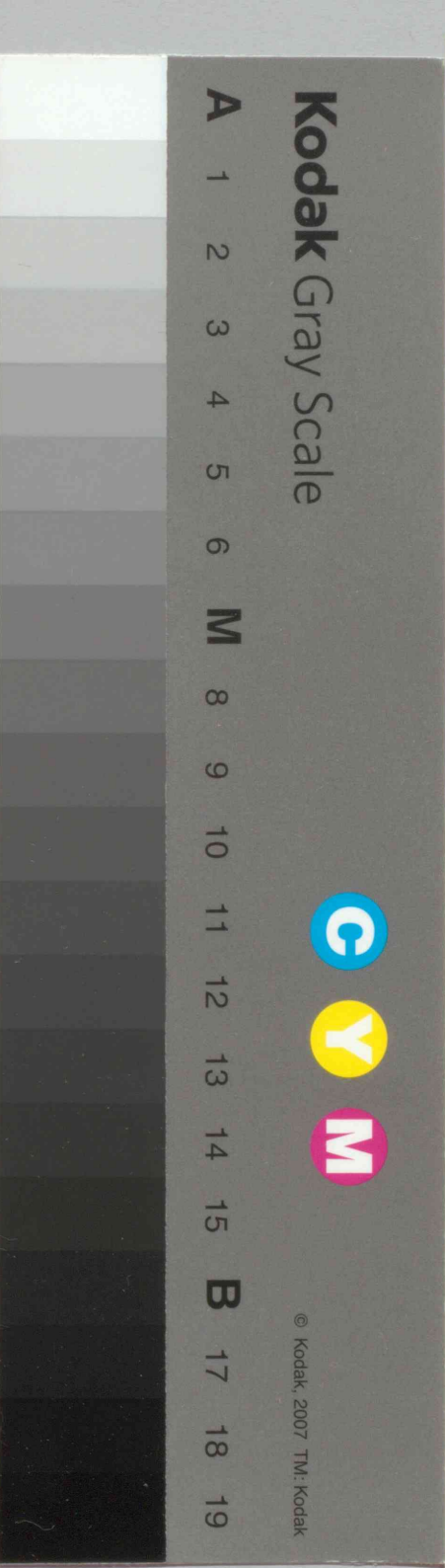
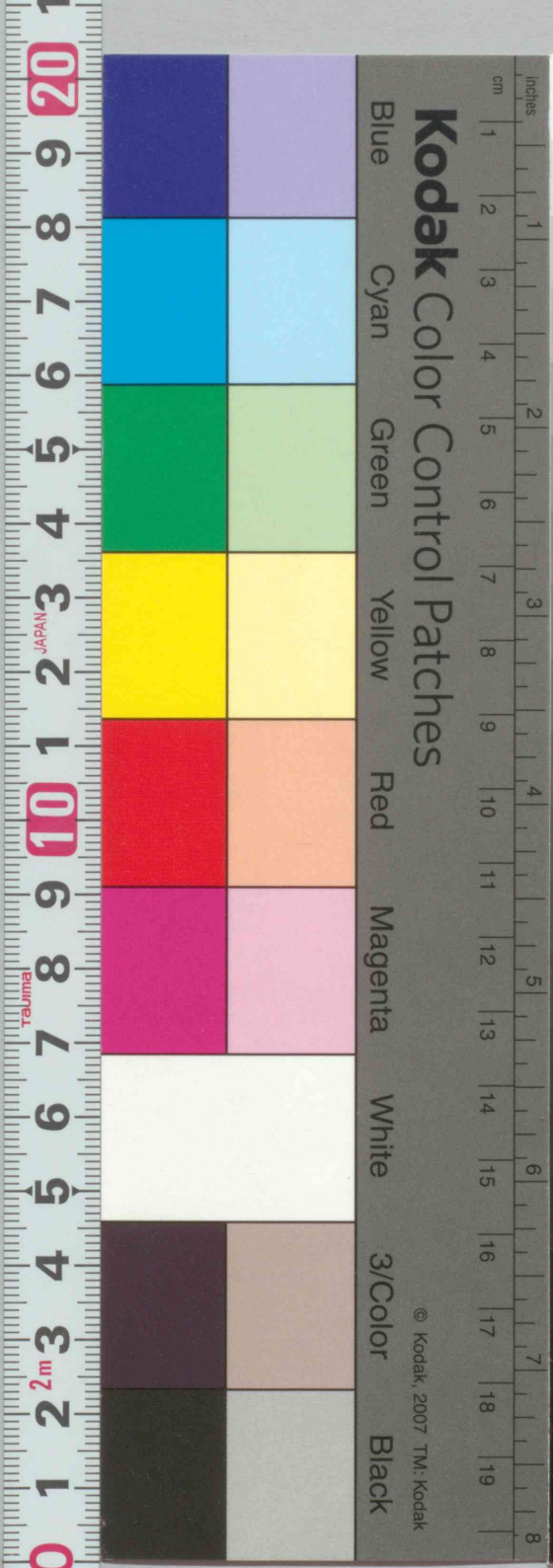
うち

2	小国 102
東書	

文部省著作教科書

TIA7
1LO
2

教
3
01



60320
教科書文庫

6
810
34-1950
01304 49754

C
Y
M



中央図書館

教科書文庫

6

810

34-1950

0130449754

広島大学図書

0130449754



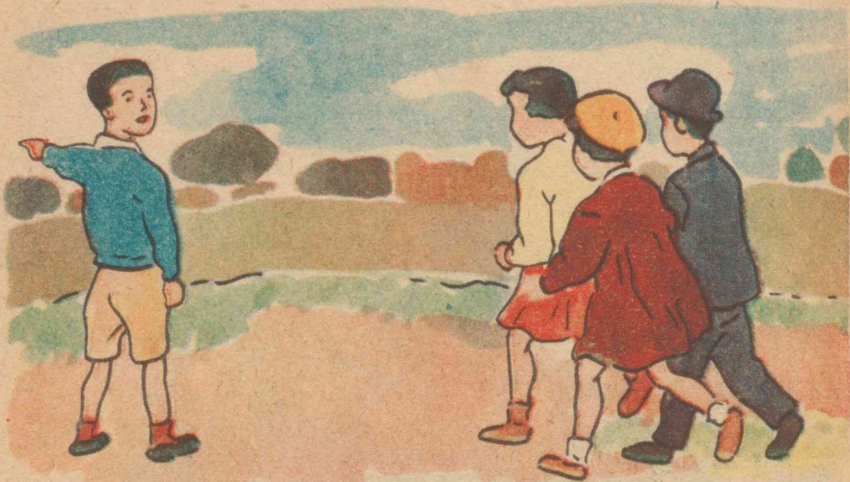
い
さ
む
さ
ん
の
う
ち



広島大学図書

0130449754





九	かみしばい	一二七
八	おはなしかい	一一七
七	いつつのとびら	一〇七
六	どうぶつえん	八九
五	おばさんのうち	六四



一	いさむさんのうち	四
二	なかよし	一四
三	かいもの	二三
四	えんそく	四四

もくじ

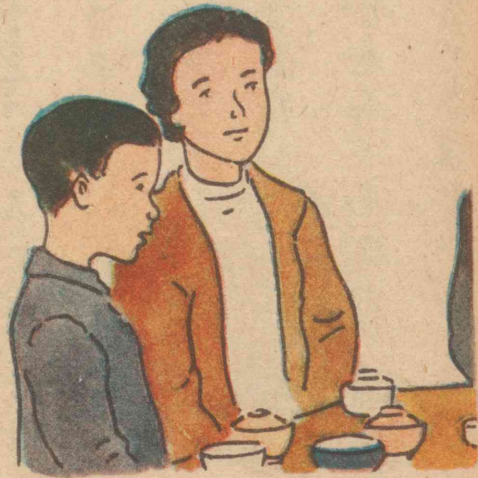


おばあさん。
 おとうさん。
 おかあさん。
 ねえさん。
 いさむさん。
 けんちゃん。

うちの 人たち



いさむさんの うち



たんじょうび

きょうは、いさむさんの
たんじょうびです。
おばあさんが、いいました。
「いさむさん、おめでとう。」
おとうさんが、いいました。
「いさむさん、おめでとう。」
おかあさんが、いいました。

「いさむさん、おめでとう。」
ねえさんが、いいました。
「いさむさん、おめでとう。」
けんちゃんも、いいました。
「にいさん、おめでとう。」
ぼちも、おを、ふりました。
みんな、おはなしをしながら、
ごちそうを、たべました。

あてて ごらん

「おいわいに これを あげよう。」

「おとうさん、なんですか。」

「さあ、なにか あけて ごらん。」

いさむさんは、つつみを あけて
みました。

なかから、あかい はこが
でて きました。



「おや、あかい はこだ。」

いさむさんは よろこんで

いました。

「まあ、きれいな はこ。」

ねえさんと けんちゃんが

いました。



いさむさんが いました。

「おとうさん、この はこの

なかに なにか はいつて いるの。」

「さあ、なにが はいって いるか、こんどは あてて
ごらん。」

「さあ、なんだろう。」

いさむさんは、あかい はこを あけて みました。
すると、なかから、あおい はこが でて きました。

「また はこだ。あおい はこだ。」

いさむさんは、びつくり しました。

ねえさんも けんちゃんも

びつくり しました。

おとうさんが、

「その あおい はこの なかに、なにが はいって

いるか あてて ごらん。」

と いいました。

「おとうさん、こんどは あてますよ。」

また はこでしよう。」

いさむさんは、あおい はこを あけて みました。

すると、小さな、きいろい はこが でて きました。

「ほら、また はこだ。きいろい はこだ。」

と、いさむさんは よろこんで いいました。

ねえさんも けんちゃんも、手を たたいて よろこび
ました。

いさむさんは、きいろい はこを あけて みました。
けれども、もう なんにも ありませんでした。
けんちゃんは、はこを ならべて かぞえました。

「ひとつ、ふたつ、みつつ。」

これ、だれの はこ、みんな にいさんの。
すると、いさむさんが いいました。

「いや、ちがうよ。三人で わけるんだよ。」

「では、ぼくのは どれ。」

「いちばん 大きくて、あかいのが けんちゃん。」

あおいのが ねえさん。

いちばん 小さくて きいろいのが ぼく。」

いさむさんは、ふたりに はこを わけて あげました。
すると、ねえさんが、

「わたしは、いちばん 小さいので いいわ。」

と いった、いさむさんのと とりかえました。

「ふたりとも いい こだね。」

おとうさんは、いさむさんと ねえさんを ほめました。

なかよし



あそびましょう

いさむさんの うちです。

あきこさんが あそびに きました。

「いつしよに あそびましょう。」

「ええ、あそびましょう。」

いさむさんが こたえました。

あきこさんは、本を もつて あそびに きました。

そこへ、まことさんと はなこさんが あそびに きました。

した。

「いさむさん、あそびましょう。」

「ええ、あそびましょう。」

いさむさんが こたえました。

はなこさんは、まりを もつて きました。

まことさんは、なわとびの なわを もつて きました。

けんちゃんも、えほんを もつて きて きました。

五人は、いつも いっしょに あそびます。

みんな なかよしです。

なにを しましょう

いさむさんが、

「なにを して あそぼうか。」

と いいました。

あきこさんが、

「がっこうごっこを しましょう。」

と いいました。

「がっこうごっこが いい。」

と、はなこさんも

いいました。

まことさんは、

「なわとびが

いいよ。」

と いいました。

「どつちに しよう。」

「さあ、どつちに しよう。」

みんな こまりました。



すると、あきこさんが、

「はじめに、

がっこうごっこを して、

あとで、

なわとびを しましょう。」

と いいました。

「それが いい。」

「それが いい。」

みんな さんせい しました。



がつこうごつこ

あきこさんが せんせいに なりました。

「わたしが せんせいですよ。」

さあ、みなさん、べんきょうを はじめましょう。」

まことさんが、

「せんせい、ぼくは 本を よみます。」

と いいました。

はなこさんが、

「せんせい、わたしは

えほんを みます。」

と いいました。

いちばん あとで、

いさむさんが、

「せんせい、ぼくは

本を わすれました。」

と いいました。

「いさむさん、

わすれものを しては



かいもの



いけませんよ。きょうは、
せんせいのを
かしてあげましょう。」
「せんせい、どうも
ありがとうございます。」
いさむさんは、おじぎを
して
ほんをかりました。



かimoto

おかあさんが、

「きょうは、かimotoに いきましよう。」
と いました。

「おかあさん、なにを かいに いくの。」
と、いさむさんが いました。

「あなたの ぼうしを かいに いくのですよ。」
「おかあさん、ぼうしの うんどうぼうしでしょう。」

すると、けんちゃんが いました。

「おかあさん、ぼうしのも かつて。」

「けんちゃんの ぼうしも かいましようね。」

「うれしいな。」

「うれしいな。」

ふたりは、手を たたいて いました。

「おかあさん、つれて いて。」

と、けんちゃんが いました。

「おかあさん、ぼうしも つれて いて。」

と、いさむさんも いました。

すると、おかあさんが、

「ふたりとも つれて 行って あげましょう。」

と いました。

ふたりは、口を そろえて また、

「うれしいな。」

「うれしいな。」

と いました。

「わんわん、ぼくも

つれて 行って。」

ぼちは、おを ふつて なきほした。

でんしゃ

ちんちん、ちんちん。

でんしゃが きました。

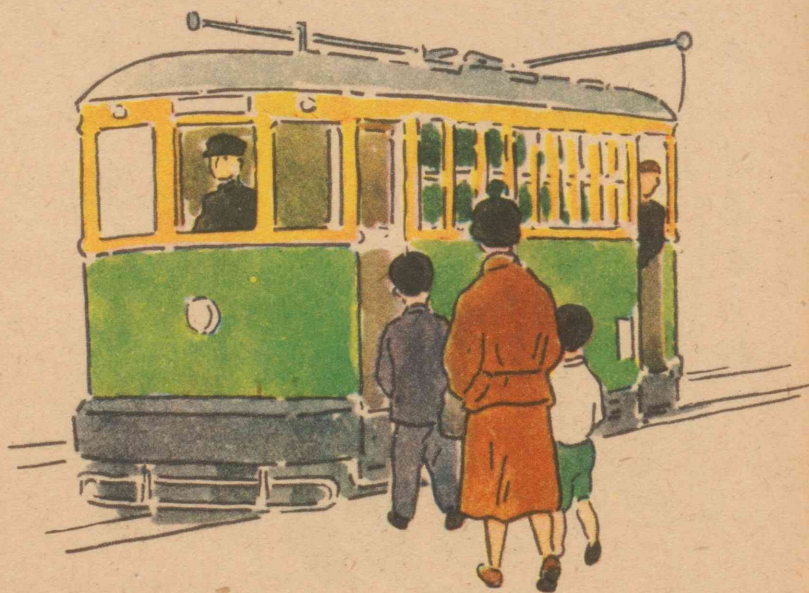
「おかあさん、

これに のるの。」

と、いさむさんが

きました。

「そう、はやく おのり、



きを つけてね。」

と いった、おかあさんは、けんちゃんの 手を ひき
ました。

でんしゃは あんまり こんで いませんでした。

いさむさんたちは、まえの まどの ところに たちま
した。

ぼちが、じつと こちらを みて いました。

いさむさんは、でんしゃの まどから、

「ぼち、おかえり、すぐ かえつて くるからね。」

と いました。

ぼちは、

「わんわん、わんわん、

ぼくも いっしょに

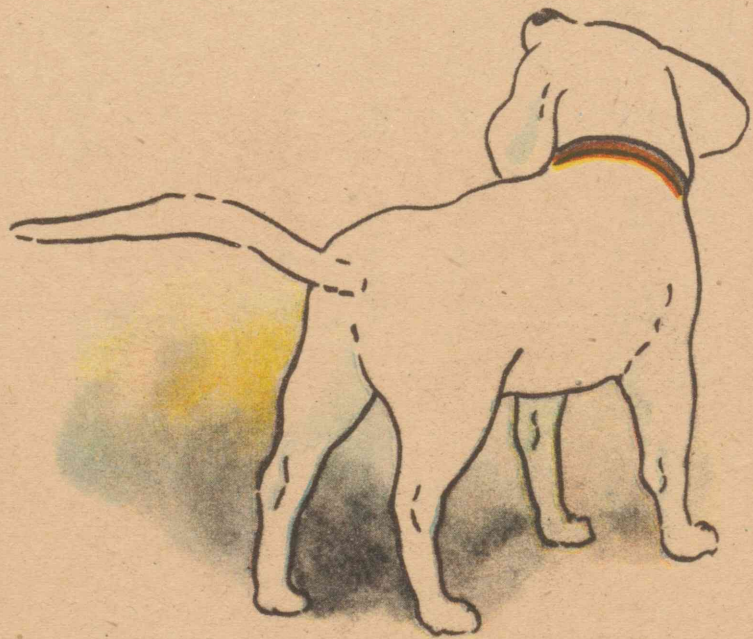
いきたいな。」

と いった なきました。

ちんちん、ちんちん。

でんしゃは すぐ

はしりだしました。



まちかどで

むこうから でんしゃが はしつて きます。
右からも じどうしゃが はしつて きます。
左からも じどうしゃが はしつて きます。

「あつ、あぶない。」

けんちゃんは びつくり して いいました。

でんしゃは すぐ とまりました。

むこうがわに、あかい いろが でて いました。

「にいさん、どうして でんしゃが とまったの。」

と、けんちゃんが いいました。

「あかい いろが けると、みんな とまるんだよ。」

「あおいのは。」

「あれは、すすむ しるし、

あれが けると すすんで

いいんだよ。」

むこうの あかが あおに かわりました。

でんしゃは また はしりだしました。

でんしゃの まどから

けんちゃんが いました。

「おかあさん、あの いえ、大きいね。」

おかあさんは、それを みて いました。

「大きいでしょう。あの、なかに、おとうさんの かいしゃが あるんですよ。」

「おとうさんは、あそこで はたらいて いるの。」
すると、いさむさんが いました。

「ぼく、おとうさんの かいしゃへ いった ことが あるよ。」

「ぼくも、いきたいな。」

それから、けんちゃんが また たずねました。

「おかあさん、こつちの あかい いえは。」

「あれは ゆうびんきよくですよ。」

「では、あの まるい やねは。」

「あれは、えき。きしゃに のる ところですよ。」
すると、いさむさんが いました。

「おばさんの うちへ いくとき、きしゃに のる

ところだよ、けんちゃん。」

「ああ、そうだ。いつかぼくいったね。」

「こんどのおやすみに、またいくんですよ。」

と、おかあさんがいいました。

「いいなあ、ぼちもつれていこうね、にいさん。」

「だめだよ、けんちゃん。」

いぬは、きしゃにはのせられないよ。」

と、いさむさんがいいました。

「そう、ぼちかわいいそうだね。」

ひゃっかてんで

ひゃっかてんにきました。

おおぜいの人が、でたりはいつたりしています。

いさむさんとけんちゃんは、おかあさんからはなれ

ないようについていきました。

一かいにも、しなものがたくさんありました。

二かいにも、しなものがたくさんありました。

一かい、二かいと、じゅんじゅんにみていきました。

ふたりは、しなものが
たくさん あるので びつ
くり しました。

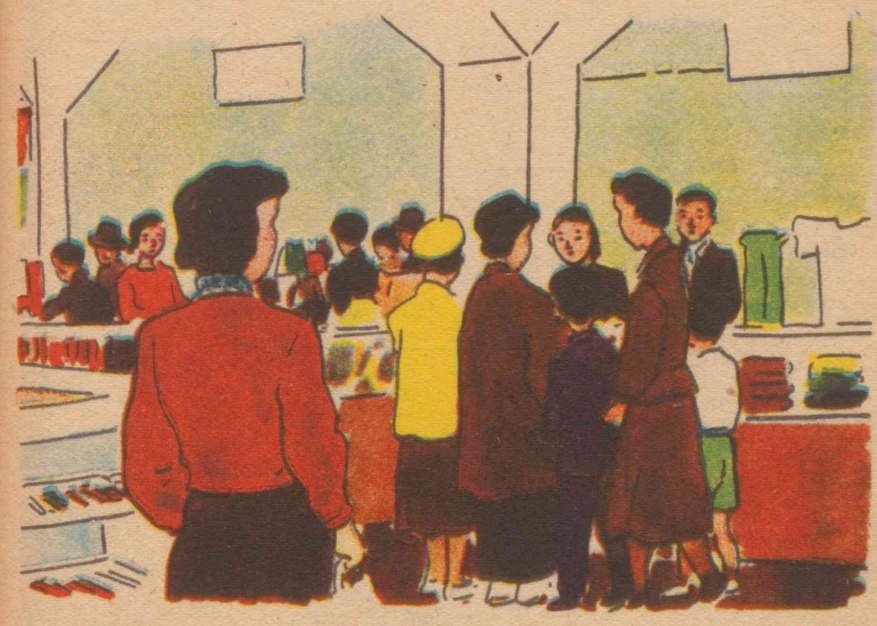
二かいに、ぼうしの
うり
ばが ありました。

おかあさんが、

「けんちゃんには、どれが

いいかしら。」

と いただきました。



「ぼく、あの まるいのが
いいよ。」

と、けんちゃんが いいま
した。

「あら、けんちゃん、あれ
は、女の子のよ。」

「じゃ、あの あおいのは。」

「そうね、あれなら いい
でしよう。かぶつて ご
らん。」



みせの人は、けんちゃんに ぼうしを かぶせました。
ぼうしは、よく にあいました。

けんちゃんは、うれしそうに、

「ぼくは、これが いい。」

と いいました。

おかあさんは、おかねを はらって、ぼうしを かいま
した。

けんちゃんは、あたらしい ぼうしを かぶって、うれ
しそうに しました。

「にいさんののは、どれ。」

と、けんちゃんが いいました。

「ぼくのは、うんどうぼうだよ。ここには みえないよ。」
と、いさむさんが いいました。

すると、けんちゃんが いいました。

「にいさんには、あれが いいよ。」

「あれは、だいがくせい の ぼうしだよ。」

「にいさんも、だいがくせいになると いいよ。」

「だって、いま 一ねんせい だもの、まだ だいがくせ

いには なれないよ。」

と いさむさんが いいました。

おかあさんは、みせの 人に、

「うんどうぼうは、どこに ありますか。」

と ききました。

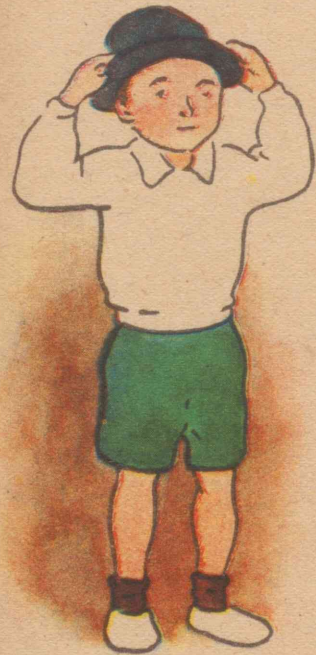
すると、みせの 人は、

「うんどうぼうなら、三がいに ございます。」

と いいました。

それで、みんな 三が

いに いきました。



三がいに ききました。

そこに、あかと 白の うんどうぼうが ありました。

いさむさんは、

「ぼくは、これが いい。」

と いった、かぶつて みました。

すると、みせの 人は、

「よく にあいますよ。」

と いいました。

いさむさんは、うれしくて たまりませんでした。

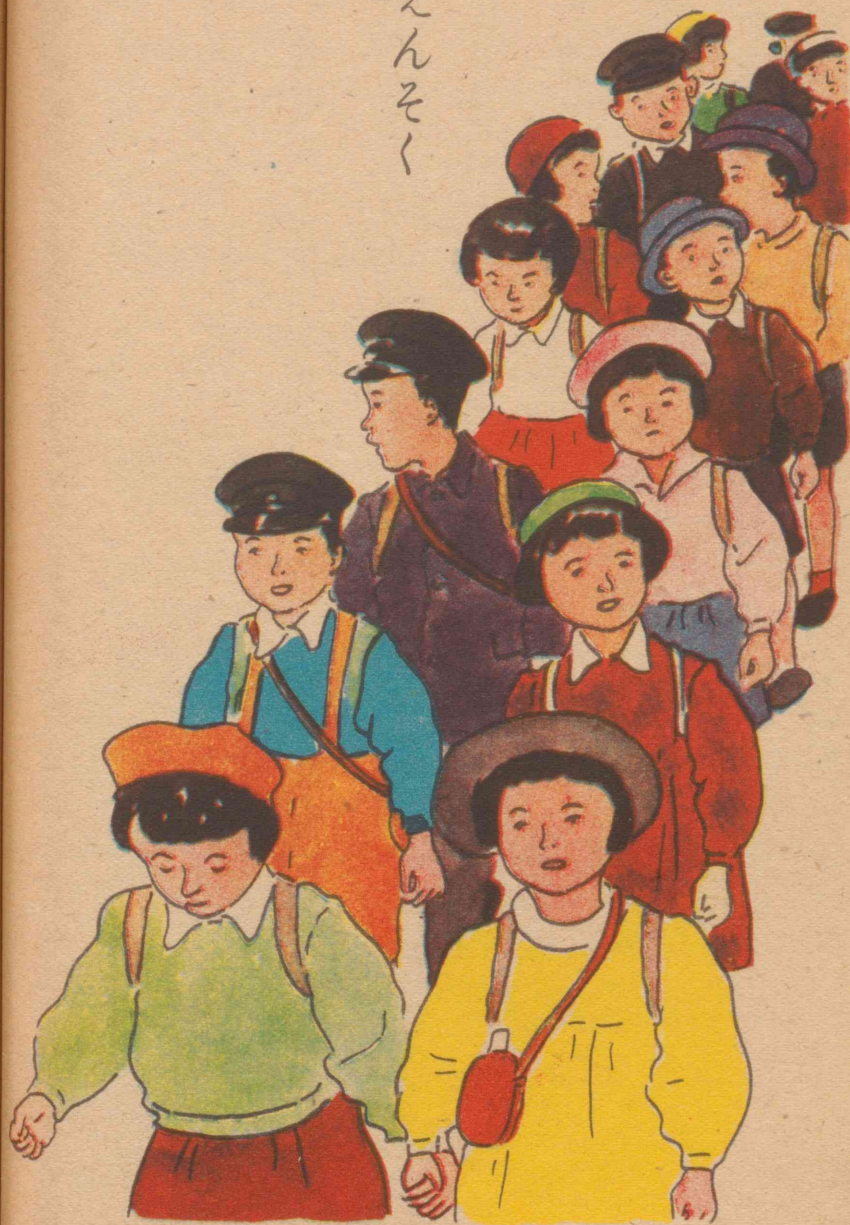
みせの 人は、

「おつつみ いたしましよ。」
と いった、ぼうしを つつんで くれました。
おかあさんは、おかねを はらって、ぼうしの つつみ
を うけとりました。
それから、本の うりばへ
いきました。



本の うりばで、
いさむさんは、ぎつしを かって もらいました。
けんちゃんも、えほんを かって もらいました。
いなかの ただおさんと ゆりこさんにも、
ぎつしと えほんを かいしました。
かえりに、一かいで、おばあさんに おみやげの おか
しを かいしました。
また、でんしゃに のつて かえりました。
でんしゃは すいて いましたから、
ふたりは、こしかけて 本を よみました。

えんそく



さあ おきなさい

おかあさんが いさむさんをおこしました。

「いさむさん、さあ、おきなさい。」

きょうは、えんそくですよ。」

いさむさんは、びつくりして 目をさましました。

「おかあさん、おてんきは。」

「いい おてんきですよ。」

「うれしいな。」

「さあ、おきて ふくを きなさい。」

いさむさんは、おきて じぶんで ふくを ききました。

「おかあさん、おべんとうは。」

「あら、おかしな いさむさん、それより、はやく か

おを あらつて ごはんを たべなさいよ。」

すると、ねえさんが いいました。

「いやね、おべんとうばかり きに して。」

いさむさんは、いそいで かおと てを あらいました。

それから あさごはんを たべました。

なにが はいつて いる

おかあさんは、りつくを いさむさんに わたしました。

「さあ、おべんとう。」

「おべんとうに なにが はいつて いるの。」

「さあ、なんでしようか。」

「おにぎりでしょう。」

「そうね、おにぎりよ それから。」

「それから なにが はいつて いるかな。」

「さあ、なんでしょう。」

「たまごでしょう。」

「たまごも ありますよ。」

「おかしは。」

「おかしも ありますよ。」

「あ、よかった。」

「わすれないで、あきこさん」

「たちにも わけて あげる」

「んですよ。」

おkaaさんは わらいながら いいました。



わすれもの

あきこさんが さそいに ききました。

「いさむさん、いきましよう。」

「さあ、いきましよう。」

いさむさんは、りつくを せおいました。

それから、すいどうを かたに かけました。

「いつて きます。」

でかけようと すると、おばあさんが いいました。

「わすれものは ありませんか、いさむさん。」

「あ、おばあさん、わすれて いた、かみと えんぴつ。ねえさんが、いそいで ぼけつとに いれて あげました。」

「いつて きます。」

「いつて おいで。」

「ぼくも いきたいな。」

と、けんちゃんが いいました。

けんちゃんは、ぼちと っつしよに ふたりを みおくりました。

さあ でかけましょう

「さあ、みなさん、これから でかけましょう。」

きょうは、だれが かかりに なりますか。」

と、せんせいが いいました。

いさむさんは、

「せんせい、あきこさんが いいと おもいます。」

と いいました。

あきこさんは、

「せんせい、いさむさんが
いいとおもいます。」

と いただきました。

すると、まことさんが、

「せんせい、いさむさんと

あきこさんと ふたりが

いいんです。」

と いただきました。

「そうです。そうです。」

みんな せんせい しました。

せんせいが いただきました。

「では、みなさん、ふたりに かけりになつて もら

いましょう。」

「はい。」 「はい。」

みんな せんせい しました。

いさむさんは あきこさんに いただきました。

「では、ふたりで かけりになりましょう。」

すると、あきこさんが いただきました。

「はい。それでは みなさん、いさむさんと わたしが
かけりになります。では、でかけましょう。」



たんぼみち

まちを だと たんぼみち、
ひろい、ひろい たんぼみち。
青い そらに 白い くも、
ながい、ながい たんぼみち。
ちやぼん、ちやぼん すいどうの みず。
おはなし しながら あるきましよう、
うたを うたつて あるきましよう。



きしや

「きしやが きた。」

きしやが きた。」

「びゅつ。」

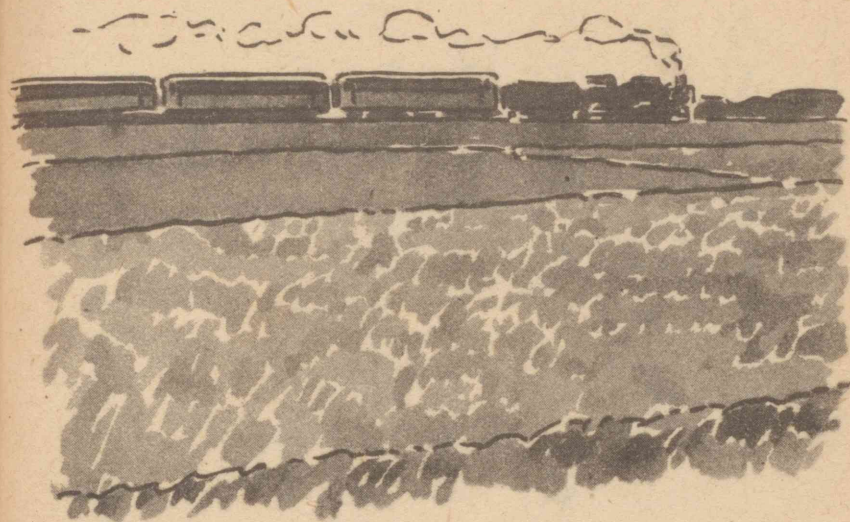
きしやは てつきようを

わたつて いきます。

みんな たちどまつて

きしやを みました。





「あの きしやに のりたいね。」
と、まことさんが いいました。
「ぼくは、おやすみに きしやに
のつて、おばさんの うちへ
いくんだよ。」
いさむさんが うれしそうに
いいました。
きしやは、だんだん 小さく
なりました。

うみ

おかの 上まで くと、うみが みえました。
みんなが、

「うみ。」 「うみ。」

と いって よろこびました。

白い すなはまに、みどりの きれいな まつが、なら
んで います。

かもめが、二三ば、まつの 上を とんで います。

うみは ほんとうに きれいです。
おきには、きせんが はしつて
います。

「あの きせんに のりたいね。」
あきこさんが いました。

「うん、のりたいね。」

みんな そう いました。

大きい なみ、小さい なみ。

青い なみ、白い なみ。

うみは、ほんとうに きれいです。



おべんとう

「おなかが すいたね。」

と、いさむさんが いました。

「おなかが すいた。」

「おなかが すいた。」

みんなが そう いました。

せんせいが、どけいを みて、 いました。

「さあ、おべんとうに しましよう。」

みんな、よろこんで くさの 上に すわりました。
そうして、おべんとうを あけました。
せんせいも くさの 上に すわりました。
そうして、おべんとうを あけました。
みんなは、

「いただきます。」

「いただきます。」

と、大きな こえで いいました。

みんな、おはなしを しながら たべました。

いさむさんは、おかあさんの ことばを おもいだしまし
した。

それで、おともだちに、おかしを すこしずつ わけて
あげました。

おべんとうの あとで、せんせいが いいました。

「かみを おとさないように きを つけましょう。」

みんな、かみくずを ひろって りつくに いれました。

いさむさんは、おにぎりを ひとつ のこしました。

そうして、

「これは、ぼちの おみやげだ。」

と いいました。

おかの 上で

おべんとうの あとで、しばらく やすみました。
それから みんなで あそびました。
おにごっこを しました。

かくれんぼを しました。
まりなげを しました。

やがて、せんせいが みんなに いいました。

「えが かきたい 人は おかきなさい。」

みんな よろこんで えを かきました。

うみの えを かいた ものも あります。

山の えを かいた ものも あります。

あきこさんは、ふねの えを かきました。

まことさんと、はなこさんは、山の えを かきました。

いさむさんは、きしやの えを かきました。

えが できてから、せんせいに みて もらったり、
みんなで みせあったり しました。

おばさんの

うち



目がさめて

いさむさんは、あさはやく目をさました。

けんちゃんはまだねていました。

きょうは、みんなでいなかのおばさんのうちへ

いく日です。

いさむさんは、

「けんちゃん、おきるんだよ。」

きょうは、おばさんのうちへいくんだよ。」

と 行って、おこして やりました。そうして、けんちゃん
んが ふくを きるのを てつだつて やりました。
あさごはんを たべてから、おとうさん、おかあさん、
ねえさん、いさむさん、けんちゃん、五人で でかけま
した。

えきまで でんしゃで いきました。

いさむさんは、おとうさんに おみやげを もたせて
もらいました。

この あいだ、おかあさんと いっしょに、ひやつかて
んで かつた おみやげでした。

えきで

おとうさんは、みんなの きつぶを かいました。

いさむさんと けんちゃんには、子どもの きつぶを
かいました。

おとうさんは、けんちゃんの きつぶと じぶんの きつ
ぶを ぽけつとに いれました。

そうして、おとうさんは、

「いさむさんは、もう 大きいんだから きつぶが も

てるね。」

と いいました。

いさむさんは、うれしく

おもいました。

いさむさんは、きつぷを

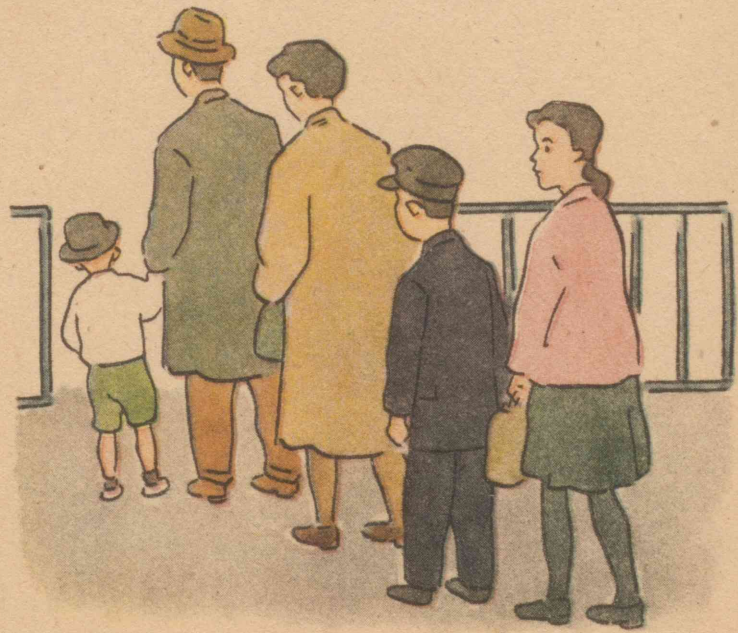
右の ぼけつとに いれ

ました。

おとうさんは、

「さあ、ならびましょう。」

と いった、けんちゃんの手を ひきました。



おかあさんは、おとうさんの うしろに ならびました。

いさむさんは、おかあさんの うしろに ならびました。

いさむさんの うしろに、ねえさんが ならびました。

いりぐちで、きつぷを きつて もらいました。

きしやは すぐ ききました。

みんなは じゅんじゅんに のりました。

いさむさんと けんちゃんは、まどぎわに せきを と

りました。

おとうさんは いさむさんと ならびました。

おかあさんと ねえさんは、けんちゃんと ならびました。

「びゅっ。」

と、きてきが なりました。

「ぼぼしゅしゅ、ぼぼしゅしゅ。」

けんちゃんは おおよろこびです。

「あつ、のはらが はしつて いくよ。」

「あつ、いえも はしつて いくよ。」

「でんしんばしらも はしつて いくよ。」

「びゅっ。」

「あつ、どんねるだよ、けんちゃん。」

きゆうに くらく なりました。

「どんねる、どんねる。」

と、けんちゃんは うれしそうに いました。

きしゃは、まもなく どんねるを できました。

まどの そとは、青い うみです。ひろい うみには、

しらほが いくつか みえました。

いさむさんは、ぽけつとに 手を いれて みました。

きつぷは ちゃんと ありました。

おりる とき

きしやは、まもなく えきにつきました。

「さあ、おりよう。」

ど、おとうさんが いました。

「ああ、おもしろかった。」

「ああ、おもしろかった。」

ふたりは かわるがわる いました。

それから、みんな でぐちへ きました。

おとうさんが いました。

「さあ、きつぶを おだし。」

おとうさんは、じぶんのと

けんちゃんのを だしました。

おかあさんも ねえさんも、

じぶんの きつぶを だし

ました。

いさむさんは、きつぶの

とを わすれて いました。

手を 左の ぼけつとに い



れて みました。

けれども、きつぷは ありませんでした。

いさむさんは びつくり しました。

すぐ、右の ぼけつとに 手を いれて みました。

すると、きつぷは ちゃんと ありました。

「あつた、あつた。」

いさむさんは、よかつたと おもいました。

おとうさんは、

「おとさなくて よかつたね。」

と いました。

こんにちは

ものの ところまで いくと、ただおさんと ゆりこさんと
んが かけて きました。

おばさんと おじさんも、でて きました。

「ただおさん、こんにちは。」

と、いさむさんが いました。

「ゆりこさん、こんにちは。」

と、ねえさんが いました。

「みなさん、こんにちは。」

おとうさんと おかあさんが いいました。

「いらつしやい。みんな よく きたね。」

「さあ、おはいり。」

おばさんと おじさんが いいました。

おばさんについて、いえの なかへ はいりました。

みけが えんがはに すわつて いました。

「みけ、こんにちは。」

いさむさんは、みけを だいて やりました。

みけは、ごろごろ のどを ならしました。

おみやげ

いさむさんは、もつて きた おみやげを、ただおさん

と ゆりこさんに あげました。

ただおさんに ぎつしを あげました。

ゆりこさんに えほんを あげました。

ふたりは、うれしそうに、

「ありがとうございます。」

と いいました。

おじさんは、いさむさんたちに、

「ただおと ゆりこに、おみやげを ありがとう。」
と いったから、ただおさんと ゆりこさんに、

「よかったね。」

と いいました。

いさむさんと ただおさんは、ざっしを みなから
おはなしを しました。

けんちゃんと ゆりこさんは、ねえさんに えほんを
よんで もらいました。

おとうさんと おかあさんは、おじさんと おはなしを
しました。

おばさんは、おちやの よういを しに いきました。

おばさんは、おぼんを もって でて きました。

おぼんの 上には、おもちと くりと ほしがきが
ありました。

「おなかが すいたでしょう。さあ、おあがりなさい。」

おばさんは、そう いった、おちやを いれました。

「さあ、みんなで いただきましょう。」

と、おかあさんが いいましたので、みんなは、

いただきます。」

と いった 食べました。

「おいしいね。」

いさむさんは、ほしがきを たくさん 食べました。
けんちゃんも、くりを たくさん 食べました。

「たくさん 食べると、おなかを こわしますよ。」
と いった、おかあさんが わらいました。

みけは、そばで みて いました。

おかあさんと ねえさんは、あとかたづけの てつだい
を しました。

うさぎ

ただおさんに ついて、

みんなで、うさぎごやへ

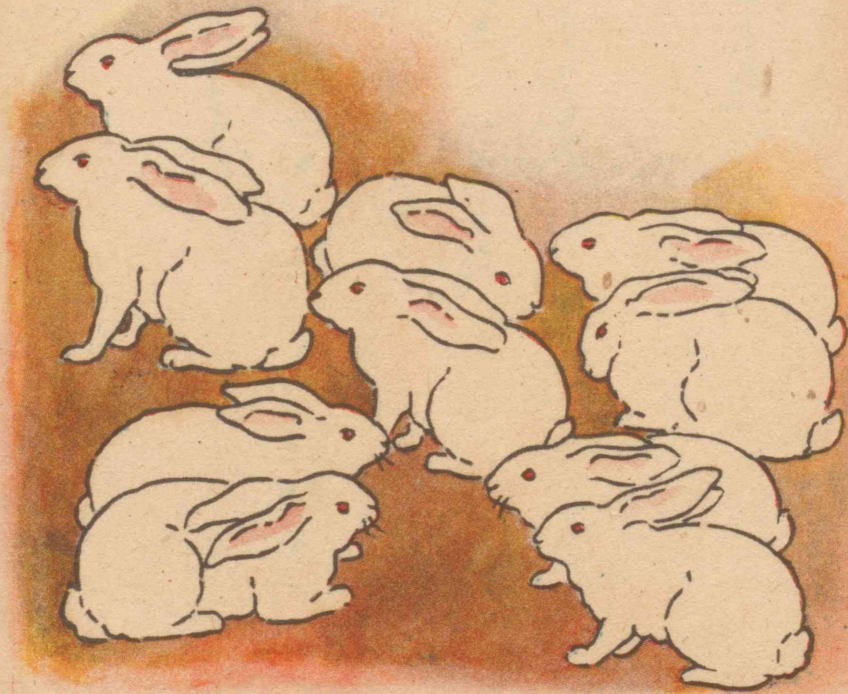
いきました。

うさぎは みんな

白うさぎでした。

ながい 耳に、

あかい 目を して



いました。

「なんびき いるの。」

いさむさんは、かぞえて みました。

「一びき、二びき、三びき、四びき、五びき、六びき、

七びき、八びき、九びき、十びき。」

うさぎは、みんなで 十びき いました。

「ほんとうに きれいな うさぎだね。ぼく、一びき

ほしいな。」

と、いさむさんが いました。

すると、けんちゃんも、

「ぼくも ほしいな。」

と いました。

ただおさんは、

「おとうさんに きいて ごらん。」

と いました。

いさむさんが、おじさんに おねがい すると、

「おとうさんと おかあさんが よければ、一びきずつ

あげよう。」

と いました。

いさむさんと けんちゃんは、おとうさんと おかあさん

んのかおをみました。そうして、
「うさぎをいただいてもいいでしょう。」
と、いいました。
おかあさんと、おとうさんは、かおを、みあわせて
うなずきました。
おかあさんは、わらいながら、
「よく、せわをするなら、もらってあげましょう。」
と、いいました。

はねつき
にわで、はねつきを
しました。
いさむさんと
ただおさん。
ねえさんと
ゆりこさん。
おかあさんと



けんちゃん。

三くみに わかれて、はねつきを しました。

かちん、かちん。

かちん、かちん。

あかい はねが あがります。

青い はねが あがります。

きいろい はねも あがります。

おとうさんと、おじさんと、おばさんは、えんがわで
みて いました。

みけも、おばさんの ひざの 上で みて いました。

さようなら

ゆうがたに なりました。

おみやげに ほしがきを もらいました。

「さあ、かえろう。」

おとうさんは おみやげを もちました。

いさむさんは、うさぎを かごに 入れて もちました。

「さようなら。」

「さようなら。」



どうぶつえん

みんな かえりの あいさつを しました。
 いさむさんは、ただおさんに いました。
 「こんどの 日曜日 に きつと おいでよ。」
 「うん、きつと いくよ。」
 おじさんと ただおさんは、えきまで みおくつて き
 ました。
 うさぎは、えきから てにもつに して おくりました。
 ゆうがた うちに かえりました。
 くたびれましたが、たのしい 一日でした。

まへの ばん

どよう日の ゆうがた、ただおさんが、おばさんとい
なから あそびに きました。

ばんごはんの あとで、おとうさんが、

「ただおさんが きたから、あしたは どうぶつえんへ
いこう。」

と いました。

「ぼくも つれて 行って。」

と、けんちゃんが いました。

「ぼくも つれて 行って。」

と、いさむさんも いました。

「みんなで、おべんどうを

もつて いこう。」

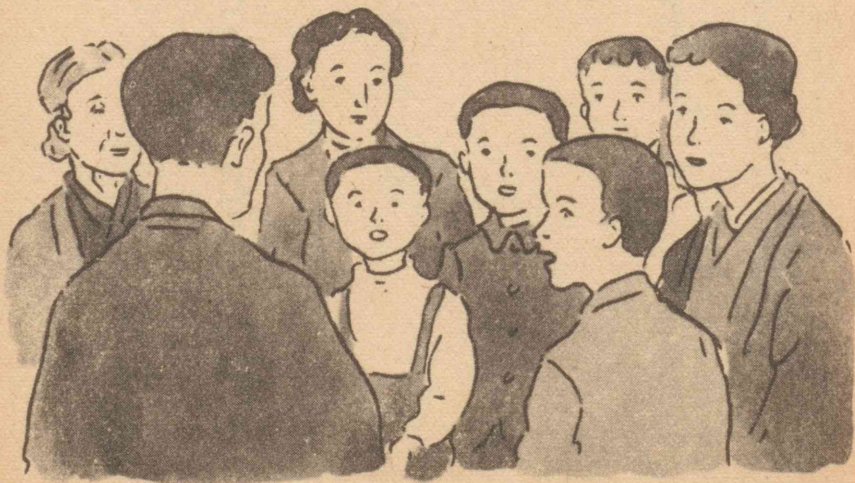
おとうさんが こう

いったので、みんなは、

「うれしいな。」

「うれしいな。」

と いました。



おばあさんが、

「けんちゃん、どうぶつえんには、どんな どうぶつが
いるか、しつて いるの。」

と いいました。

「おさるが いるよ。」

と、けんちゃんが いうと、

「それから、うし、うま、ぶた、くま——」

と、いさむさんが、どうぶつの なまえを たくさん
いいました。

それから、また

いさむさんが いいました。

「おさるに なにか おみやげを もつて いくよ。」

「さあ、なにが いいかしら。」

と、ねえさんが いいました。

みんなが かんがえて いると、おとうさんが、

「おさるには、かぼちやの たねが いいよ。」

と いいました。

それで、かぼちやの たねを もつて いく ことに
しました。

とちゅうで

つぎの日は、よいおてんきでした。

いさむさんたちは、おべんとうをもつて、どうぶつえんにいきました。

おとうさん、ねえさん、ただおさん、いさむさん、けんちゃん。みんなで五人です。

でんしゃのつていきました。

いさむさんと、ただおさんと、けんちゃんは、そとを

みながらおはなしをしました。

いさむさんは、ただおさんに

まちのおはなしをして

あげました。

けんちゃんは、でんしゃが

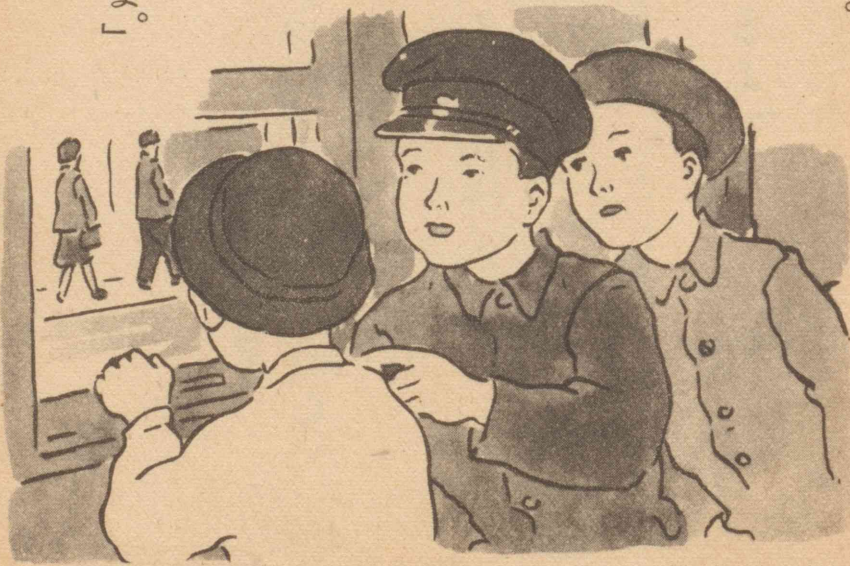
とまると、

「あのあかいしるしが

とまるしるしで、青い

しるしがすすむしるしだよ。」

と、いきました。



きりん

どうぶつえんの いりぐちで、きつぶを かってから
はいりました。

いちばん はじめに きりんを みました。

けんちゃんが、

「いさん、大きな しかが いるよ。」
と いました。

いさむさんは

わらいながら

いました。

「けんちゃん、

あれは キリ

りんだよ。」

「しかに よく

にて いるね。」

「しかも 大きくて

くびが ながいよ。」



「あの きりん、いきで いるのかしら。すこしも うごかないよ。」

その とき、きりんが 耳を うごかしました。

「ごらん、耳を うごかして いるよ、いきで いるんだよ。」

と、いさむさんが いいました。

「あの きりんは、うちの えほんの きりん そつくりね。」

と、ねえさんが いいました。

ぶた

ただおさんが わらいながら いいました。

「けんちゃん、あそこに ぶたが いるよ。白いのと、くろいのが。」

「おや、あなの なかから おさが でて きたよ、けんちゃん。」

「おや、おさが、白ぶたに おんぶ したよ。」
けんちゃんは、手を たたいて よろこびました。

白ぶたは、さるを おんぶ して、ぶうぶう いいなが
ら、とつとど かけまわりました。

「あの おさるに、かぼちやの たねを やろうよ。」

ただおさんが、さるに、

かぼちやの たねを

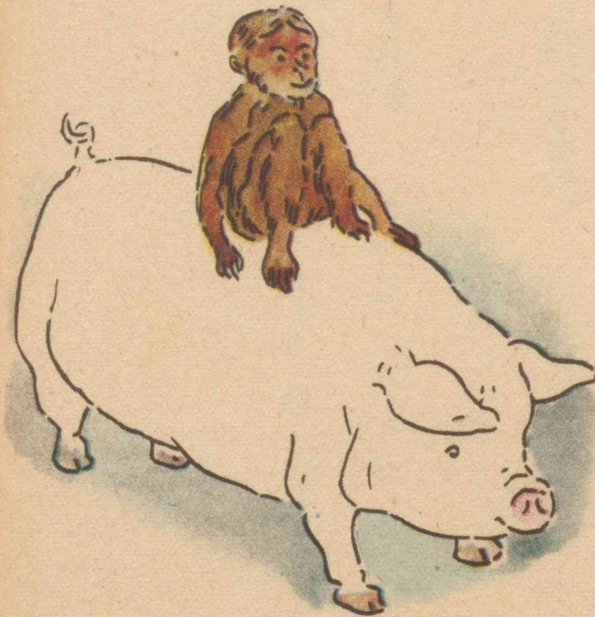
なげて やりました。

すると、さるは、す

ぐ とびおりて、

かぼちやの たねを

ひろいました。



そうして、また 白ぶたの せなかに おんぶ しまし
た。

こぎるは、白ぶたの せなかで、かぼちやの たねを
たべました。

白ぶたは、やつぱり ぶうぶう いいながら あるいて
いました。

さるの でんしゃ

ちんちん、ちんちん。

「おさるの でんしゃが できますから、はやく おのり
ください。」

かかりの 人が みんなに いいました。

けんちゃんも、おとうさんに きつぶを かって もらっ
て のりました。

子どもが 二十人ぐらい のりました。

ちんちん、ちんちん、

さるの でんしゃが うごきだしました。

さるの うんてんしゅは、ときどき、よこを みると、
うしろを みるとり しました。

「おや。」

さるの うんてんしゅは、でんしゃから
とびおりました。

子どもたちは、

「おさる、はやく のって、

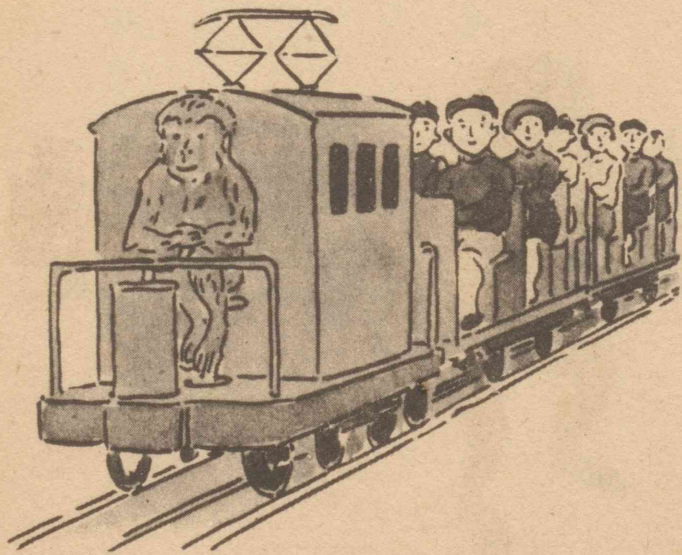
うんてん して おくれ。」

と、でんしゃの なかから

よびました。

さるの うんてんしゅは、

いやに なると、すぐ



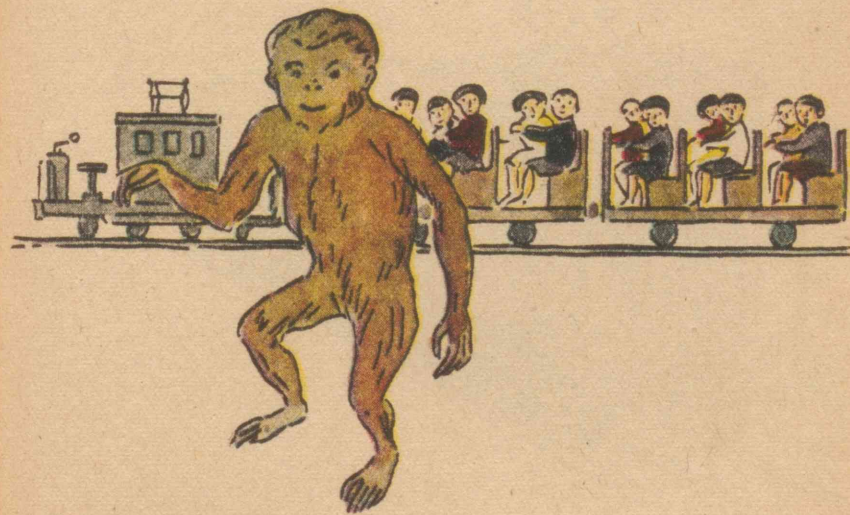
おりて、しばらく あそぶのです。

「おや、おさるが またのつたよ。」

さるの うんてんしゅは、
また でんしゃに とびのりしました。

ちんちん、ちんちん。

さるの でんしゃは、
ぐるぐる まわって いきます。



うちへ かえって

いさむさんたちは、おべんとうを たべてから、また、
いろいろな どうぶつを みて、あるきました。

らくだや くまのような、大きな どうぶつも みました。
りすのような、小さな どうぶつも みました。

つるや ぺりかんのよう、大きな とりも みました。
うぐいすや かなりやのよう、小さな とりも みま
した。

このほか かばや くじゃくのような、めずらしいど
うぶつや とりも みました。
ゆうがたに なつて、みんな つかれて かえりました。
ばんごはんを たべながら、どうぶつえんの おはなし
を しました。

おばあさんと、おかあさんは、

「きょうは ほんとうに よかったね。おもしろかった
でしょう。」

と いいました。

いっつもの とびら



きょうは、あめふりです。そとで あそぶ ことが できま
せんから、みんな いさむさんの うちに あつまりました。
まことさん、はなこさん、あきこさん、いさむさん、それか
ら、けんちゃんも いっしょに あそびました。いつつ
とびらを して あそびました。
おばあさんは、いつも にこにこ して きいて いました。
けんちゃんは、ときどき、おもしろい ことを いって、み
んなを わらわせました。

くだものです

いちばん はじめに、まことさんが もんだいを だし
ました。

「たべものです。どんな たべものでしょう。

さあ、あてて ごらん。」

「その たべものは、子どもが よろこびますか。」

「はい、たいへん よろこびます。あと 四もん。」

「それでは、おかしですか。」

「いいえ、おかしでは ありません。あと 三もん。」

「では、くだものですか。」

「くだものですが、どんな くだものでしょう。」

「その くだものの いろは、きいろですか。あかですか。」

「いろは、きいろです。あと、一もんですよ。」

「では、みかんでしょう。」

「そうです。みかんです。」

よく あたりました。」

にんげんです

こんどは、あきこさんが もんだいを だしました。

「こんどは、にんげんです。さあ、だれでしよう。あて
て ござらん。」

「おとなですか、子どもですか。」

「おとなです。あと 四もん。」

「その かたは 男ですか、女ですか。」

「その かたは 男です。あと 三もん。」

「せいの たかい かたですか、ひくい かたですか。」
「はい、せいの たかい かた です。」
「その かたは、目がねを かけて いますか。」
「はい、かけて います。あと 一もん。」
「では、やまだせんせいでしょう。」
「はいえ、ちがいます。こうちようせんせいです。」
「あ、しまった。としを きいて おけば よかったの
に。」

どうぶつです

つぎに、いさむさんが もんだいを だしました。
「こんどは どうぶつです。」
「その どうぶつは どこにでも いますか。」
「はいえ、どこにでも いる ものでは ありません。」
「では、どうぶつえんになら いますか。」
「はい、どうぶつえんになら います。」
「からだの 大きな どうぶつですか、小さな どうぶ

つですか。」

「大きなからだの どうぶつです。あと ニもん。」

「その どうぶつは、くびが ながいですが、みじかい
ですか。」

「そうですね。たいへん ながい くびです。あと 一
もんですよ。」

「わかりました。それは、きりんでしよう。」

「そうです。よく あたりました。」

かみです

いちばん あとで、はなこさんが もんだいを だしま
した。

「かみです。」

「一まいの かみで つくった ものですか。それとも、

なんまいもの かみで つくった ものですか。」

なんまいもの かみで つくった ものです。あと

四もん。」

「じが かって ありますか。」

「はい、じが かって あります。あと 三もん。」

「では、本でしょう。」

「そうです。本ですが、なんの 本でしょう。あと 二もん。」

「その 本に、きれいな えが ありますか。」

「はい、とても きれいな えが あります。あと 一もん。」

「わかりました。それは、こくごの 本でしょう。」

「そうです。あぶない ところで あたりました。」

おはなしかい



いさむさんの した おはなし

この あいだ いなかの おばさんの うちに いきま
した。

うさぎが たくさん いましたので、おとうとと 一ぴ
きずつ もらって きました。

かごに いれて、きしゃで つれて きました。

ぼくたちの うさぎは、耳が ながくて、目が あかく、
からだは まっ白です。

なまえを 「しろちゃん」 「ゆきちゃん」と つけました。

ぼくは、あさと ばんと、二どずつ えさを やります。

おひるの えさは、おとうとが、おばあさんと いっしょ
に やります。

ぼくは、がつこうから かえると、すぐ しろちゃんを
だいて やります。

すると、しろちゃんは、

「くくく、くくく。」

と いって、うれしそうに なきます。

ぼくは、しろちゃんが すきで すきで たまりません。

はなこさんの した おはなし

うちの うめの はなが さきました。

うちの うめの はなは うすあかいろです。

けさ、うぐいすが とんで きました。

「ほ、ほう、ほけきよ。」

と、いい こえで なきました。

「ほ、ほう、ほけきよ。」

みんな、しずかに して いると なきました。

あきこさんの した おはなし

十二ひきの ぶたが 川を わたりました。

あさい ところを わたりました。

きをつけて わたりましたから、みんな むこうの

きしに ぶじに つきました。

きしに あがつてから、みんな いろかしらと おもい

ました。

いちばん はじめに、ぶうちゃんが かぞえました。

「一ひき、二ひき、三ひき、四ひき、五ひき、六ひき、七ひき、八ひき、九ひき、十ひき、十一ひき。」

「おや、十一ひきしかいない。一ひきたりない。」

ぶうちゃんは、しんぱいして、もう一どかぞえてみました。

「一ひき、二ひき、三ひき、四ひき、五ひき、六ひき、

七ひき、八ひき、九ひき、十ひき、十一ひき。」

「やっぱり、十一ひきしかいません。」

「おかしいな。みんなわたったはずなのに、どうしたのだろう。」

「それでは、ぼくがかぞえてみよう。」

「こんどは、とんちゃんがかぞえてみました。」

「やっぱり、十一ひきしかいません。」

「こんどは、わたしがかぞえてみましょう。」

「ころちゃんがかぞえてみました。」

「けれども、やっぱり一ひきたりません。」

「十二ひきのふたは、

「一ひきたりない。」

「一ひきたりない。」

「と、いって、なきました。」

ふいに、ぶうちやんが、なくのを やめて いました。
「あ、わかった。じぶんを かぞえるのを わすれて
いた。」

みんな おおわらいを しました。

まことさんの した おはなし

ふゆの かぜが、はるの かぜに、
「ぼくのように つよく ふけるかい。」
と いました。

はるの かぜは、

「あなたのようにつよく ふく ことは できません。」
と ことえました。

ふゆの かぜは、

「なんだ、よわいな。」

と 行って わらいました。

そこで、はるの かぜが いました。

「でも、わたしは、はなを さかせる ことが できま
す。」

すると、ふゆの かぜは、

「ぼくだって さかせる ことが できる。」
と いった、ぴゅう、ぴゅう つよく ふきました。
けれども、はなは さきませんでした。
こんどは、はるの かぜが、しずかに そよそよと
ふきはじめました。
くさが、じめんに めを だして ききました。
はなが、きれいに さきました。
ことりが、いい こえで なきました。
ふゆの かぜは、はずかしく なりました。
それで、北の くにへ、とんで かえりました。

かみしばい

—ぼくの

みた ゆめ—



「そらを とんで みたいな。」
と、けんちゃんが いいました。
「とんで みたいな。」
と、ぼくも いいました。
それで、ぼくは りよう手を
とりのように うごかしました。
はやく、はやく うごかしまし
た。



すると、からだか かるく なり
ました。
あしが、ひとりでに うきあがり
ました。
「おや おや、とべるぞ。」
ぼくは びつくり しました。
「けんちゃん、けんちゃん、
りよう手を うごかして ぶ
らん。」
と、大きな こえで いいました。





「けんちゃん、うちの やねが
あんな ところに みえるよ。」
「もう、こんなに たかく とん
で いるんだね。」
「あの 山の 上を とぼう。」
「うん、とぼう。」
ふたりは、
むちゅうに なって、りよう手を
うごかしました。



けんちゃんが、りよう手を うご
かしました。
すると、ふわふわと からだが
うごきました。
けんちゃんも、びつくり した
かおを しました。
ふたりは ならんで とびだしま
した。
「にいさん、おもしろいね。」
と、けんちゃんが いいました。

「けんちゃん、きれいだね。」

「こんどは、お月さんのところ」

へ いろいろよ。」

「うん、いろいろ。」

「にいさん、かぜが ふいて き
たよ。」

けんちゃんが しんぱい して
いいました。

「だいじょうぶだよ、けんちゃん。」

「にいさん、手が つかれたよ。」

「手を ひいて あげよう。」

「にいさん、手が とれそうだ。」

けんちゃんは なきだしました。

「もう すぐだ、がまん して。」

と、ぼくが はげました。

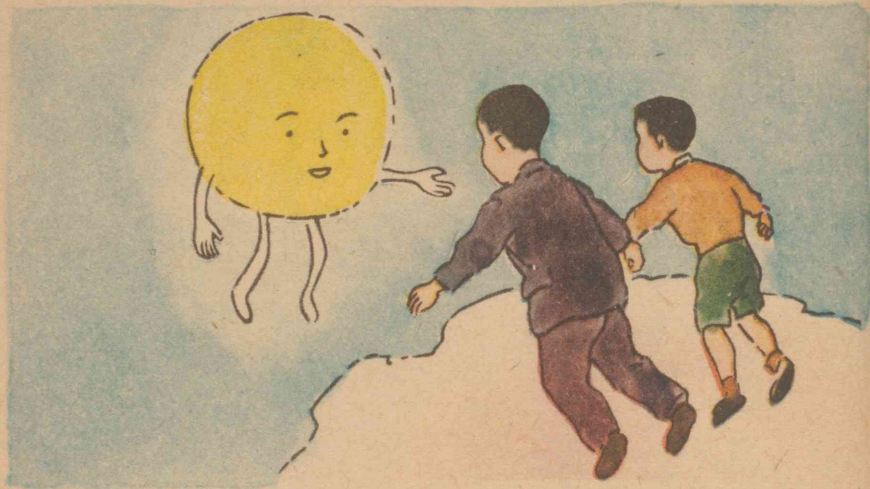
「にいさん、もう うごけない」

よ。」

「でも、おちたら だめだよ。」

と、ぼくが いいました。





お月さんの ところに つきま
した。
「げんちゃん、いさむさん、よく
きたね。」
と、お月さんが いいました。
ふたりは、お月さんと あくしゅ
を しました。
お月さんは、めずらしい ものを
いろいろ みせて くれました。



そこへ 白い くもが とんで
きました。
「くもさん、のせて ください。」
と、ぼくが たのみました。
「さあ さあ、おのりなさい。」
くもさんは、わらいながら いい
ました。
くもさんは、わたのように やわ
らかでした。ぼくたちを のせて
ずんずん たかく とびました。

お月さんは、

「これは、おとうさんと おか

あさんの おみやげですよ。」

と、いって、おだんごを くれ
ました。

「ありがとう、お月さん。」

ぼくたちは、おだんごをもらっ
て、また くもに のりました。



「お月さん、さようなら。」

お月さんが 手を ふって

みおくって くれました。

その とき、また かぜが ふ
いて ききました。

くもが にわか に ゆれました。

あんまり ゆれたので、ぼくた

ちは くもから おちました。

どしんと ちめんについた
とき、目が さめました。



- | | | |
|---|---|--|
| 110. あたる
—あたり(ました) | 120 ほけきよ(なき声)
しずかに | 126 北
くに |
| 111 にんげん
おとな
かた(方)
男
女 | 121 十二ひき
川
あさい
きし
ぶじ
ぶう(ちゃん) | 127 かみしばい
ゆめ
128 りょう手
129 あし
ひとりて(に)
うきあがる
—うきあがり(ました) |
| 112 せい
たかい
ひくい
目がね
やまだ(せんせい)
こうちょう(せんせい)
とし
おく—おけ(ば) | 122 十一びき(しか)
(十一びき)しか
たりる—たり(ない)
しんばい
—ど
おかしい(な)
はず(なの)に) | 130 ふわふわ
とびだす
—とびだし(ました) |
| 113 — | 123 とん(ちゃん)
ころ(ちゃん) | 131 あんな
こな(に)
むちゅう |
| 114 二もん
みじかい | 124 ふい(に) | 132 だいじょぶだ(よ) |
| 115 つくる—つく(た)
それとも(接)
なんまい | やめる—やめ(て)
ふゆ
かぜ
はる(春)
つよい—つよく
ふける(かい) | 133 がまん
おちる—おち(たら)
(おち)たら |
| 116 じ(字)
とても
こくご | 125 ふ(吹)
よわい(な)
ても(接)
さかせる | 134 ください
たのむ
—たのみ(ました) |
| 117 おはなしかい | 126 びゅうびゅう
そよそよ
ふきはじめる
—ふきはじめ(ました) | わた
やわらか
ずんずん |
| 118 おとうと
まっ白 | 127 びゅうびゅう
そよそよ
ふきはじめる
—ふきはじめ(ました) | 135 あくしゅ
136 おだんご
137 にわか
どしん(と)(音) |
| 119 しろ(ちゃん)
ゆき(ちゃん)
二ど
すき | 128 ちめん
め(芽)
ことり
はずかしい
—はずかしく | |
| 120 うめ
さく—さき(ました)
うすあかいろ
けさ
ほ(なき声)
ほう(なき声) | | |

あたらしい かんじ

人 (5)	二 (35)	七 (82)
小 (11)	女 (37)	八 (82)
手 (12)	子 (37)	九 (82)
三 (12)	白 (41)	十 (82)
(人) (12)	目 (45)	(三) (86)
大 (13)	青 (54)	(日) (88)
本 (15)	上 (57)	(四) (109)
五 (16)	山 (63)	男 (111)
口 (26)	日 (65)	川 (121)
右 (30)	耳 (81)	北 (126)
左 (30)	四 (82)	月 (132)
一 (35)	六 (82)	

53	それでは(接)	61	おとす —おとさ(ないように)	71	そと しらほ
54	たんぼみち まち ひろい ながい ちゃぼん(音) あるく —あるき(ましよう) うた	62	しばらく おにごっこ かくれんぼ やがて	72	おりる おもしろい —おもしろ(かった)
55	びゅっ(音) てっきょう わたる—わたっ(て) たちどまる —たちどまっ(て)	63	もの(者) ふね てきる—てき(て) みせあう —みせあっ(たり)	73	—
56	だんだん	64	—	74	—
57	うみ おか 上 すなはま みどり まつ ならば—ならん(て) かもめ 二三ば	65	日	75	こんにちは もん(門)
58	おき きせん うん(感) なみ	66	もたせる —もたせ(て) (この)あいだ	76	いらっしゃい おはいり みけ えんがわ だく—だい(て) ごろごろ(音) のど ならず —ならし(ました)
59	とけい	67	きっぷ もてる	77	—
60	くさ いただく —いただき(ます) ことば おもいだす —おもいだし(ました)	68	—	78	—
61	(お)ともだち すこし	69	いりぐち まどぎわ せき きてき なる —なり(ました)(鳴) おおよろこび のはら てんしんばしら	79	おちゃ ようい (お)ほん (お)もち くり ほしがき おあがり(なさい)
		70	きゅうに くらい —くらく(なりました)	80	こわす —こわし(ます) あとかたづけ
		71	とんねる まもなく	81	うさぎごや 白うさぎ 耳 なんびき —びき

82	二ひき 三ひき 四ひき 五ひき 六ひき 七ひき 八ひき 九ひき 十ひき ほしい	92	どうぶつ しる—しっ(て) (お)さる うし ぶた くま なまえ	102	ときどき よこ
83	(お)ねがひ (—びき)ずつ	93	かんがえる —かんがえ(て) かほちゃ たね	103	うんてん くれる—(お)くれ よぶ—よび(ました)
84	みあわせる —みあわせ(て) うなずく —うなずき(ました)	94	つき(次)	104	とびのる —とびのり(ました)
85	はねつき にわ	95	—	105	いろいろ(な) らくだ リナ つる
86	三くみ かちん(音) はね あがる —あがり(ます)	96	きりん しか にる—に(て)	106	かば くじゃく めずらしい
87	かご	97	くび いきる—いき(て) うごく —うごか(ない)	107	いつつ とびら
88	あいさつ きつと てにもつ おくる —おくり(ました)	98	そっくり	108	あめふり あつまる —あつまり(ました) わらわせる —わらわせ(ました)
89	どうぶつえん	99	あな おんぶ	109	たべもの もんだい たいへん 四もん
90	どよう日	100	ぶうぶう(なき声) とつとつ かけまわる —かけまわり(ました) なげる—なげ(て) とびおりる —とびおり(て)	110	いいえ 三もん くだもの あか きいろ 一もん みかん
91	こう(いったので)	101	せなか やっぱり 二十人 (二十人)ぐらい うごきだす —うごきだし(ました) うんてんしゅ		

あたらしい ことば

4	いさむ(さん)	12	かぞえる	19	さんせい
5	人 (人)たち ねえさん けん(ちゃん) (けん) ちゃん		—かぞえ(ました)	20	べんきょう
6	たんじょうび おめでとう		ひとつ	21	わすれる
7	ぼち お(尾)		ふたつ		—わすれ(ました)
	ふる—ふり(ました)		みっつ		わすれもの
	(し)ながら		だれ(代)	22	いけません
	ごちそう		ちがう(よ)		かす—かし(て)
8	あてる—あて(て)		三人		どうも
	ごらん		わける(んだよ)		おじぎ
	お(いわい)	13	ては(接)		かりる—かり(ました)
	(お)いわい		どれ(代)	23	かいもの
	(あげ)よう		いちばん	24	かう—かい(に)
	さあ(感)		とりかえる		あなた
	つつみ		—とりかえ(ました)		ぼうし
	はこ		こ(子)		うんどうぼう
	てる—て(て)		ほめる	25	つれる—つれ(て)
9	おや(感)		—ほめ(ました)	26	口
	まあ(感)	14	—		そろえる
10	こんど		あきこ(さん)		—そろえ(て)
	(なん) だろ	15	ええ(感)	27	てんしゃ
	すると		こたえる		ちんちん(音)
	おおい		—こたえ(ました)	28	き(気)
11	その(代)		本		ひく—ひき(ました)
12	たたく—たた(て)		そこ(へ)		あんまり
	けれども(接)	16	まり		こむ—こん(て)
	ならべる		なわ		まど
	—ならべ(て)		五人		たつ—たち(ました)
			いつも		じっと
		17	がっこうごっこ		すぐ
		18	どっち(代)	29	はしりだす
			こまる—こまり(ました)		—はしりだし(ました)
		19	はじめ	30	はしる—はし(て)
			あと		まちかど

30	むこう 右 じどうしゃ 左 あっ(感) あぶない とまる	37	あら(感) あれ(代) 女の子 じゃ(感) なら(助) かぶる—かぶ(て)	45	おこす —おこし(ました) 目 さます —さまし(ました)
	—とまり(ました)		—かぶせ(ました)	46	ふく きる—き(なさい) じぶん おかしい —おかしな
	むこうがわ	38	みせ かぶせる		それより ごはん ばかり(助) あさごはん
31	すすむ しるし かわる—かわり(ました)		—かぶせ(ました)		りっく わたす —わたし(ました)
	かわる—かわり(ました)		にあう		おにぎり
32	いえ(家) かいしゃ あそこ(代)		—にあい(ました)	48	よかった わらう —わらい(ました)
	—たずね(ました)	39	(お)かね はらう—はら(て) あたらしい		—わらい(ました)
33	それから(接) たずねる		みえる—みえ(ない)	49	さそう—さそい(に) せおう —せおい(ました)
	—たずね(ました)		だいがくせい		すいとん かた てかける —てかけ(ようと)
	ゆうびんきょく		だつて(接)		かた
	まるい		いま		てかける
	やね		—ねんせい		—てかけ(ようと)
	えき	40	(だ)もの なれる—なれ(ない)	50	かみ えんぴつ ぼけっと みおくる —みおくり(ました)
	とき		三がい		—みおくり(ました)
34	だめ(だ) のせる		ございます		—みおくり(ました)
	—のせ(られない)		それで(接)	51	かかり おもう —おもい(ます)
	かわいい	41	それ(接)		—おもい(ます)
	—かわい(そうだ)		白	52	—
35	ひゃっかてん おおぜい		たまる		
	つく—つい(て)		—たまり(ません)		
	—かい	42	つつむ—(お)つつみ		
	しなもの		うけとる		
	二かい		—うけとり(ました)		
	じゅんじゅん	43	ざっし もらう		
36	うりば (いいか)しら		—もらい(ました)		
			おみやげ		
			こしかける		
			—こしかけ(て)		
		44	えんそく		

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やいゆえよ
らりるれろ
わ(い)う(え)を
ん

がぎぐげご
ざじずぜぞ
だぢづでど
ばびぶべぼ

ぱぴぷぺぽ

いさむさんの

うち



2	小国 102
東書	

文部省著作教科書

TIA7
1L0
2

教
3
01